

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493700221	事業の開始年月日	平成24年8月1日
		指定年月日	平成30年8月1日
法人名	株式会社 ハートフルケア		
事業所名	グループホーム プラチナホーム市ヶ尾Ⅱ		
所在地	(225-0024) 神奈川県横浜市青葉区市ヶ尾町1849-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果 市町村受理日	令和2年9月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しく法人理念を加え、お客様第一に考え、ホームでの生活が安全で安心出来る環境作りを目指している。又、地域との繋がりを大切にして行くことを考え、小学生の来訪や町内会の催事に参加。お客様がホームで生活するにあたり、今までご家庭でしていた事がホームに入っても継続的に行え自立した生活を送れるよう支援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年7月10日	評価機関 評価決定日	令和2年8月4日

※新型コロナウイルス感染予防の為、調査日を翌年度に延期し、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所は、東急田園都市線の市が尾駅から徒歩15分ほどの、国道12号線沿いの住宅地の一角に位置する。近くの鶴見川の岸辺は、利用者や近隣住民の散歩コースになっている。広い敷地には同一法人の「プラチナホーム市ヶ尾」があり、ホームの祭り、運営推進会議や防災訓練などを合同で行っている。 【理念の実践】 「安心して、豊かに暮らすことのできる社会を創ることに貢献します」という法人理念を基に、リーダー会議で目標を策定している。2019年度は、「地域から求められるような事業所とする」と「利用者の健康と安全を守る事業所作り」となっており、全体会議で周知徹底している。職員は、利用者との散歩の際に道のゴミを拾って周辺環境の美化に努め、地域の行事に積極的に参加して、地域に密着した事業所として受け入れられるように努めている。また、利用者とのコミュニケーションを通じて意向や想いを読み取る能力を向上させ、把握した事柄を活かして日々の健康と安全な暮らしの支援に務めている。 【利用者の行動制限をしないケアの実践】 管理者、ユニットリーダー、職員で構成される身体拘束適正委員会では、日々のケアの中で生じた疑問について事例を挙げて意見交換している。例えば、利用者が立ち上がるそぶりを見せただけで側に駆け寄って手を添えたり、手伝うので待つように声をかけるなど、過剰なケアにより本人の出来ることを抑制し、行動制限をすることがないかを検討し、結果を職員全体で共有してケアの向上に繋げている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	プラチナホーム市ヶ尾Ⅱ
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	プラチナホーム市ヶ尾Ⅱ
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の実現。その為にリーダー会議を開き、目標を決め施設運営とお客様の生活環境をより快適に考え実行している。	法人理念を基に2019年度は「地域から求められる事業所」、「利用者の健康と安全を守る」という目標を定めている。職員は利用者と共に、地域の一員として行事への参加や環境の美化などを行い、利用者とのコミュニケーションを密にして、想いや意向を読み取って心や体の状況を把握し、利用者の日々の健康と安全な暮らしをサポートしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶や美化活動を心掛け、自治体の行事に積極的に参加している。	町内会に加入し地域の盆踊り、地域ケアプラザの祭りなどに参加している。正月には獅子舞の訪問もある。年末には小学生が参加する「はまっ子クラブ」の餅つき大会に加わり地域との交流を深め、散歩の折りには、道端のゴミを拾うなどの環境美化に務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方や町内会長の方から情報を頂き、行事などに参加し、外部と接する事で理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、町内会長、民生委員の方の率直な意見を聞ける場であり、ホームへ持ち帰り、改善や地域の情報を得る機会となっている。	運営推進会議は、隣接する同一法人の「プラチナホーム市ヶ尾」と合同で奇数月に開催している。会議ではホームの現状などの報告の後、出席者と質疑応答を行っている。2019年度は看取りに対するホームの方針やホーム行事の再開といったテーマがあった。出席者は、家族代表、町内会代表、民生委員、管理者である。地域ケアプラザや青葉区の職員は案内を出しているが出席はない。	事業所は地域ケアプラザの行事へ参加しており、青葉区職員の定期的な事業所訪問もある。その機会に運営推進会議への出席を呼びかけて、行政関係者の参加が実現することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方や受け入れに関する相談をしたり、受けたりをしている。町内会長、民生委員のアドバイスを受け、地域との交流を得ている。	青葉区高齢支援課に運営推進会議議事録を提出している。区的生活支援課職員が、生活保護費受給者との面談に年に2～3回訪問した際に、利用者の状況について意見交換している。区主催の「感染症研修」に管理者とリーダーが参加し、結果を持ち帰って職員に周知している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束を行わない事を理解している。利用者様の状況により、扉は開錠している。又、身体拘束適正委員会を元にし、情報の周知、徹底に心掛けている。	職員で構成する「身体拘束適正委員会」を設置し、3か月毎に開催している。日々のケアの中で身体拘束に当たる行為などについて、疑問に思うことをお互いに意見交換し、議事録を職員に回覧で周知している。フロア入り口は開放し、玄関は、ボタンを押すとドアが開き、いつでも外に出ることが可能である。ドアの開閉時はチャイムが鳴り、利用者の外出を察知したときには、職員が同行し、できるだけ意向に沿って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、常に閲覧できる環境を作っている。又、職員同士が連携をとる事で虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加しています。それらで得た研修内容を職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明を行い、当ホームへの希望に対しての対応可能内容の確認を行っている。契約改正時には、管理者が家族に説明しご理解の下、契約書を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来られた際は気になる点や不安な点を聞くようにしている。ご家族様と密になる事で意見の収集をしている。また、運営推進会議などを通して外部の方の意見を職員に報告している。	毎年、隣接のホームと合同開催の「グループホーム祭」には半数以上の家族が参加し、親睦を兼ねて意見交換を行っている。家族の日常の訪問時にも意見や要望を聴いている。2019年度末より始まった新型コロナの影響による外出自粛の際に、家族からマッサージ器や運動器具、体操のDVDの寄付の申し出があり、利用者のアクティビティに活用した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕の申し送りの後や常に職員との会話や意見交換する機会を設けている。	管理者は、毎月開催するフロア会議や日々のサービスの現場で職員の意見や提案を聴き取っている。年2回の個別面談では、各人の長所・短所について話し合い、長所を活かしたケアをすることを助言したり、個人目標の達成度についてのフィードバックを実施している。年度末からの家族の面会制限に対応し、職員の提案で、利用者毎にホームでの生活の写真に一言コメントを添えて送り、家族から好評を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	制度変更により個々の実績、能力を最大限に生かせ評価できる体制になりつつある。又、年2回の面談で個々の目標設定や見直し、アドバイスを行い個々の能力向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員本社にて研修、外部研修に参加し、スキルアップを行えるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループ内も研修に参加し他部署、多職種との交流や情報交換、見学会などを実施している。交換研修などにも参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や面接時、気楽に話が出来るような明るい雰囲気作りに努め、困っていること、望んでいることを話せる環境作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談で来所された際、または電話にて随時、家族の悩みを受け止める努力をしている。気軽に相談できる電話対応も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取り後、リーダー職員、介護支援専門員と協議し、必要な支援が受けられるように提携機関、協力機関との話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の趣味や経験してきたことの知識を共に行動していけるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様が入居して終わりではなく、今まで以上にご家族様とより良い関係作りが出来るよう距離感を大切に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、馴染みの方との連絡が途切れないように、電話で連絡をする、訪問して頂くなどの支援を行なっています。	家族が迎えに来て、自宅や家族の家に出かける方や馴染みの理美容に行く方がいる。家族の了承を得て、電話や手紙、年賀状を取り次いでいる。年賀状などの返事を出す際には、はがきの購入や投函などの支援をしている。古い友人や知人が訪問してくる利用者が数名いる。来訪した際は、リビングや居室に案内し、湯茶でもてなしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性などを考え役割活動などでより良い関係性作りの支援をしている。孤立しがちな方には、職員が御利用者様の間に入り、円滑にコミュニケーションがとれるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も直接ご自宅で相談にのり、電話にて相談や支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人よりの意向などを記録として残している。意思表示が困難な人は、生活歴や態度から汲み取りケアプランに取り入れている。	2019年度の事業所の目標の一つ、「利用者とのコミュニケーションを深め、意向を読み取る」を実践し、利用者の思いや意向の把握に努めている。確認した事柄は申し送りノートに記録して共有している。ホームのイベント「お料理会」のメニューは、利用者の食べたいものを聴き取って、焼きそば、たこやき、ホットケーキなどを職員と一緒に作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴の情報を得、プライバシーに配慮し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察し記録に残している。往診医師や訪問看護師による他方面からの心身の把握を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞き毎日の記録やケアチェック表から支援すべき課題を明確にしている。	介護計画は、アセスメントを基に個々のニーズや課題を把握し、長期・短期目標や具体的サービス内容を設定している。利用者毎に、目標やサービス内容に沿って介護記録を付けている。担当者会議では、計画作成担当者と職員が、経過記録表、介護記録、ケアチェック表などで状況を把握し、モニタリングを行っている。計画の見直しは3か月毎、状況の変化があれば随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や申し送り事項をもとに、カンファレンスを行い介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて地域包括支援センター、医師、看護師、薬剤師、福祉用具店などの協力を得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ケアプラザ、小学校などのイベントに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に関して、介護サマリーを提出し出来るだけ本人の状況を細かく説明しています。それらを元に、適切な医療を受けられるようにしています。	以前からのかかりつけ医の受診は2名で、心療内科と整形外科に家族対応で通院している。事業所は、受診結果の報告を受けている。協力医療機関の往診は、ユニット毎に月2回である。同一法人の訪問看護事業所から看護師が来訪し、健康管理などを行っている。看護師は24時間オン・コール対応である。歯科医は月2回来訪し、希望者の診療を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師へ、心身の状態を報告し情報の共有化を行い、それらを往診医に伝達し健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へは、介護サマリーなどの情報をお渡しして本人が安心して治療できるよう支援し、家族と退院後の受け入れに向けて話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関の医師から家族にムンテラを行い、また今後の事についてはご家族様とホーム長、医師にて決めている。	事業所は、「医療処置を含まない、自然な形で看取りを行う」方針である。入所時に、「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を得ている。医師の判断で終末期となった時点で、医師、家族、管理者が話し合い、医師が状況を説明し、管理者が看取りの方針を説明している。家族が希望すれば、医師が作成した看取りに関する同意書を受け取って看取りを実施する。職員は、看取りに関する法人研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、それに沿って対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し最低年2回の避難訓練を行っている。又、防災担当を決め、備品の確認やリストの作成を行っている。	年2回、防災担当者が避難訓練報告書を消防署に提出し、プラチナホーム市ヶ尾と共同で年2回の自主訓練を実施している。うち1回は夜間想定訓練である。洪水を想定した垂直避難の訓練も行っている。年2回、地域の防災訓練には防災担当が参加している。災害備蓄は備蓄リストを作り、飲料水・食料を約3日分と衛生用品、紙製食器、懐中電灯、カセットコンロとボンベなどを管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライドを尊重した言葉かけを行い、個人記録には氏名の明記などしないよう職員全員が周知し、その人らしさを大切にしている。	「身体拘束適正委員会」では、利用者の尊厳を守ること、言葉かけなどで行動制限しないことを事例を挙げて話し合い、結果を議事録に残して職員に周知している。本人の自己決定に重点を置き、利用者との相談会を適宜開催し、レクリエーションや外出先などについて、要望を聴き取って対応している。個人記録は事務所の鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間をかけての傾聴や毎日の生活から本人の意思や希望を汲み取る努力をしている。お客様と信頼関係を築けるよう気配りに気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、本人のペースに合わせた暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容と連携を図り、本人の望む身だしなみやおしゃれに添えるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は関連施設から運ばれ、配膳や片付けなどを職員と協力している。また、定期的に外食行事やお料理会を実施しています。	三度の食事は、同一法人の施設から調理済みの主采や副菜が届けられ、職員が白飯や味噌汁を作って提供している。朝食には、洋食やパンなども取り入れている。季節の行事食もある。職員は同じものを食べながら、見守りや介助をしている。利用者の要望を聴いて、お料理会などの食レクを行ったり、おやつ外食などに出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事・水分量を準備し、摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは、不十分などを支援し、義歯は夜間に浄剤使用している。また、必要であれば訪問歯科にて適切な口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導等を行っている。車椅子の方も積極的にトイレでの排泄を支援している。	トイレは各ユニット3個所で、1個所は浴室脇に設置されている。トイレの清掃や殺菌は職員が行っている。日中は車椅子使用の方も含め、チェック表を参考にして声かけを行い、出来るだけトイレでの排泄を支援している。夜間は、利用者毎の状況に合わせ、定時巡回でおむつ交換を行ったり声かけや誘導を行ったりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に排便状況を記入し、水分や内服薬の調整を行っている。腹部マッサージや体操、リハビリ、散歩にて排便状態の改善を支援する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ本人の希望に合わせて入浴をして頂こうと考えているが、職員の体制により、職員がご利用者に説明し、入浴していただくことがあります。	入浴は原則週2回、午前中である。1日に3名程度が入っている。本人の体調により、シャワー浴などに変えることもある。浴槽の湯はかけ流しで、湯が汚れた場合は交換している。入浴終了後に、清掃・消毒を行っている。同性介助の希望があれば対応している。柚子湯、菖蒲湯などで季節を感じてもらい、入浴剤などを入れて利用者を楽しませている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	介護記録にて個々の睡眠状況を把握し、安眠、休息への支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理・服薬の支援を行い体調観察に努め、変化が見られる際には往診医に相談しており、24H、往診医と連携が取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあわせた役割活動や趣味の支援を行っている。散歩、地域の祭り、ホームで家族を招いての祭りなどの参加も楽しみのひとつとなっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にあわせた外出や家族参加の外出を企画している。 (動物園、植物園、外食等)	天候が許す限り、日課として近隣の川べりなどに散歩に出かけている。管理者は、散歩の目的は運動と気分転換と考え、徒歩で出かけるのを好まない方は、車椅子を利用して散歩に行き、気分転換をしてもらっている。ウッドデッキで外気浴を楽しむ方もいる。初詣や近隣の祭り、盆踊りに出かけたり、法人の車を利用して、遠方のマリパークや外食に出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホーム内では職員がお金の管理をしています。たまに一緒に買い物に出かけ、自ら選び支払うなどを行い、出来るだけ家庭にいる時と変わらない環境作りを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て本人の友達等との電話や手紙でのコミュニケーションをとっている。また、季節の手紙、年賀状などの支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に絵画を飾り、リビングには協力して作った壁飾りや行った行事の写真を展示し、花を飾るなどの季節を感じられる環境を演出している。	共有部分は清掃が行き届き、全体が清潔に保たれている。廊下は広く手すりが備え付けられている。年2回、専門業者によるワックス掛け、窓拭き、空調機器の清掃やフィルター交換を実施している。リビングルームは、利用者の様子を撮った写真や利用者と職員が一緒に手作りした工芸品、カレンダーなどが掲示され、落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファがあり好きな時間にゆったりと過ごすことが出来る、仲の良いもの同士は居室や中庭を使い仲良く会話等をされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人の使い慣れたものを持参して頂けるよう、ご家族様にお話ししている。	居室は、空調設備、照明器具、収納設備、防炎カーテン、ベッドが常備されている。利用者は、使い慣れた家具や化粧台、テレビなどを持ち込み、手作りのパッチワークや家族の写真、誕生日カードなどを飾って、自分らしい部屋としている。職員が部屋の換気を毎日行い、清掃の際は、モップがけや手すり拭きなどを利用者が一緒にやることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の基本動作を把握し、補助具の使用などで自立した生活を支援していく。また、場所がわからない、電気の消し方がわからないなどには張り紙をして対応している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームプラチナ
ホーム市ヶ尾Ⅱ

作成日 2020年8月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に行政関係者の参加、協力をお願いする	定期的に担当地域のケアプラザや区役所の方に参加をして頂く	① 訪問時に声掛けし日程を伝える。 ② 敵機的に連絡をしあえる関係性の構築	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。